

更新表（平成16年3月31日現在）

No.	更新箇所	更新前 (平成15年11月28日公表版)	更新後 (環境省ホームページ掲載版)
1	P.8 下から3行目	排水腫	肺水腫
2	P.13 4の場所	宮城県	岩手県滝沢村
3	P.14-P.16の の欄（保有部隊等・北海道陸軍兵器補給廠の欄の 2から 62）	2- 62	3- 63 各1ずつ加える
	P.14 表6 No.9の保有部隊等の欄	同上	相模海軍工廠全体（錦分廠含）
	P.14 表6 No.9の場所の欄	同上	神奈川県寒川町、同平塚市、福島県いわき市
	P.14 表6 No.9の砲・爆弾の欄	塩化アセトフェンは錦分 相模海軍工廠分合	削除
	P.14 表6 No.10の場所の欄	千葉県習志野市、船橋市、	千葉県習志野市、船橋市
	P.14 表6 No.15の砲・爆弾の欄	同左表6中に一部記述内容が見えない箇所がある。	報告書更新電子版（当省ホームページに掲載）で修正
	P.14 表6 No.16の砲・爆弾の欄	同左表6中に一部記述内容が見えない箇所がある。	同上
	P.14 表6 No.17の砲・爆弾の欄	同左表6中に一部記述内容が見えない箇所がある。	同上
4	P.14 表6 No.28の場所の欄	同上	逗子市
	P.15 表6 No.48の砲・爆弾の欄	同左表6中に一部記述内容が見えない箇所がある。	報告書更新電子版（当省ホームページに掲載）で修正
	P.15 表6 No.50の砲・爆弾の欄	八本松と県大嶺に	広島県八本松と山口県大嶺に
	P.15 表6 No.52の場所の欄	愛媛県大三島	愛媛県上浦町
	P.15 表6 No.52のジフェニルシアンアルシンの欄	(554.8ton)	595ton
5	P.15 表6 No.52のクロロアセトフェノンの欄	(7ton)	7ton
	P.16 表6 No.60の保有部隊等の欄	海軍航空廠大分工場	第十二海軍航空廠（大分）
	P.16 表6 No.60の砲・爆弾の欄	イベリット型薬缶2,351個（内容量計）	6番1号爆弾2,351個
	P.16 表6 No.61の保有部隊等の欄	同上	海軍航空廠大分工場
6	P.16 表6 No.61の場所の欄	同上	大分県大分市・九重町
	P.19 表7 地図記号番号2の砲・爆弾の欄	ガス弾60	ガス弾60発
	P.19 表7 地図記号番号3の砲・爆弾の欄	ガス弾100	ガス弾100発
	P.19 表7 地図記号番号11の廃棄先の欄	小学校	教育施設
	P.19 表7 地図記号番号12の砲・爆弾の欄	93式持久ガス現示筒184本	93式持久ガス現示筒（くしゃみ剤ジフェニルシアンアルシン）184本
	P.19 表7 地図記号番号13の廃棄先の欄	相馬ヶ原	相馬原
	P.19 表7 地図記号番号15の廃棄先の欄	習志野市	習志野市、船橋市
	P.19 表7 地図記号番号27の保有部隊等の欄	不明	第16師団兵器部
	P.19 表7 地図記号番号27の廃棄先の欄	大学施設	教育施設
	P.19 表7 地図記号番号28の昭和20年11月18日～11月24日の廃棄先の欄	岡山県岡山市	海没のため搬出
	P.19 表7 地図記号番号28の昭和20年11月25日～12月1日の廃棄先の欄	同上	海没のため搬出
	P.19 表7 地図記号番号28の昭和20年11月25日～12月1日の砲・爆弾の欄	小あか筒100個 中あか筒79個 射あか筒30個	小あか筒100個 中あか筒79個 発射あか筒30個
	P.19 表7 地図記号番号28の追加	保有部隊等の欄の追記	広島陸軍兵器補給廠岡山分廠
	同上	廃棄先	海没
	同上	砲・爆弾の欄の追記	中あか筒4個、小あか筒4個、発射あか筒41個
	同上	遺棄（旧軍、民間）の欄	投棄場所記載なし
P.19 表7 地図記号番号29の保有部隊等の欄	不明	津山陸軍予備士官学校	
P.19 表7 地図記号番号29のイベリット及びルイサイトの欄	詳細不明	イベリット及びルイサイト各1本（量は半分程度）	
7	P.20 表7 地図記号番号30の保有部隊等の欄	忠海兵器製造所	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所
	P.20 表7 地図記号番号31の保有部隊等の欄	忠海兵器製造所	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所
	P.20 表7 地図記号番号32の保有部隊等の欄	忠海兵器製造所	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所
	P.20 表7 地図記号番号34の上段の保有部隊等の欄	記載無し	広島陸軍兵器補給廠忠海分廠阿波島出張所
	P.20 表7 地図記号番号34の中段の保有部隊等の欄	同上	広島陸軍兵器補給廠忠海分廠阿波島出張所
	P.20 表7 地図記号番号34の下段の保有部隊等の欄	同上	記載無し
	P.20 表7 地図記号番号36の保有部隊等の欄	大嶺及び曾根	大嶺
	P.20 表7 地図記号番号37の保有部隊等の欄	曾根兵器製造所	東京第二陸軍造兵廠曾根兵器製造所
	P.20 表7 地図記号番号38の保有部隊等の欄	不明	第1陸軍予備士官学校
	P.20 表7 地図記号番号40の保有部隊等の欄	曾根兵器製造所	東京第二陸軍造兵廠曾根兵器製造所
	P.20 表7 地図記号番号41の保有部隊等の欄	不明	西部軍教育隊
	P.20 表7 地図記号番号41の廃棄先の欄	西合志村	西合志町
	P.20 表7 地図記号番号41のイベリットの欄	一部記述内容が見えない箇所がある。	報告書更新電子版（当省ホームページに掲載）で修正
	P.20 表7 地図記号番号43の保有部隊等の欄	不明	西部軍8088部隊 高射機関砲部隊
P.20 表7 地図記号番号44の保有部隊等の欄	第十二海軍航空廠（大分）	第十二海軍航空廠（大分）	
8	P.22 図3 件数	619件 6件 13件 7件 7件 10件 18件 12件 6件	606件 4件 7件 13件 12件 9件 16件 11件 8件
9	P.23 表8 タイトル	戦後に旧軍毒ガス弾等の発見・被災・掃海等の状況	戦後における旧軍毒ガス弾等の発見・被災・掃海等の処理状況

	P.23 表 8 1の地図番号の欄	0	1
	P.23 表 8 No.20 の概要の欄	漁船が漁網にガス弾など6個(爆雷2個を含む)を引っ掛け、陸奥市内の海岸に陸揚げし、海上自衛隊大湊処分隊に届出る。同4日大湊処分隊により爆破処分したが、ガスにより4名被災。	漁船が操業中にガス弾など7個(爆雷等4個を含む)を引揚し、陸揚後に自衛隊に届出する。この際に3名が被災。同4日に大湊自衛隊が同弾の処分を実施したが、処分時に8名が被災。
	P.23 表 8 No.26 の場所の欄	青森県 むつ湾	青森県 陸奥湾
	P.23 表 8 No.26 の年月日の欄	昭和47年8月21日～31日	昭和47年8月21日～27日
	P.23 表 8 No.26 概要の欄	調査	第1次調査 機雷探知機による搜索
	P.23 表 8 No.27 の毒ガス弾等の種類の欄		同上
	P.23 表 8 No.27 概要の欄	調査	第2次調査 機雷探知機による搜索 探知目標に対する水中テレビによる確認 探知目標付近の採水、採泥
10	P.24 表 8 35の項目の欄	処理米国製催涙球	発見
	P.24 表 8 36の地図番号の欄	3	(空欄)
	P.24 表 8 37の地図番号の欄	4	(空欄)
	P.24-38 表 8 47-149,152-654の地図番号の欄	4	3
	P.26 表 8 150,151の欄	同左表 8 の欄	削除
	P.38 表 8 655の行	同左表 8 の行	広島県事案のため、P.42 No.755と756の間に挿入
	P.38 表 8 656,657の地図番号の欄	4	5
	P.26-38 表 8 152-654のNo.の欄	同左表 8 の欄	各2ずつ減じる(150-652)
	P.38-42 表 8 656-755のNo.の欄	同左表 8 の欄	各3ずつ減じる(653-752)
	P.42-43 表 8 756-810のNo.の欄	同左表 8 の欄	各2ずつ減じる(754-808)
11	P.39 表 8 660の地図番号の欄	5	4
	P.39 表 8 665の場所の欄	千葉県習志野	千葉県千葉市
	P.39 表 8 680の地図番号の欄	4	(空欄)
	P.39 表 8 686の毒ガス弾等の種類の欄	・・・されなかつた。)	・・・されなかつた。)
	P.39 No.688の毒ガス弾等の種類の欄	1)ビール瓶11本(マスタード9本、ルイサイト1本を確認 2)イペリットとク本、・・・・・・ ロ口アセトフェノン、・・・・約10本	ビール瓶11本(マスタード9本、ルイサイト1本、・・・・・・を確認
	P.39 No.688の概要の欄	さがみ縦貫道路の橋脚工事現場でピン数本が出土しピンが割れ異臭が生じ、数日後、発疹かぶれ炎症等びらん症状(中等症入院せず)を発祥した。被災者11名。	さがみ縦貫道路の橋脚工事現場でピン数本が出土しピンが割れ異臭が生じ、数日後、発疹かぶれ炎症等びらん症状を発祥した。被災者11名。
	P.39 表 8 689の地図番号の欄	(空欄)	7
12	P.40 表 8 690-696の地図番号の欄	8	7
	P.40 表 8 703の毒ガス弾等の種類の欄	イペリットボンベ12	イペリットボンベ12本
	P.40 表 8 704の毒ガス弾等の種類の欄	旧軍毒ガスボンベ9	旧軍毒ガスボンベ9本
	P.40 表 8 706の地図番号の欄	(空欄)	8
	P.40 表 8 707-714の地図番号の欄	9	8
	P.40-41 表 8 721-723,725-729,735,736,739の地図番号の欄	(空欄)	9
	P.41 表 8 724の地図番号の欄	4	9
13	P.42 表 8 752の概要の欄	敗戦後	終戦後
	P.42 表 8 756-771の地図番号の欄	11	10
	P.42 表 8 772,774の地図番号の欄	11	(空欄)
	P.42-43 表 8 780-790の地図番号の欄	12	11
14	P.43 表 8 803-808の地図番号の欄	13	12
	P.43 表 8 809の場所の欄	大分県中津	大分県中津市
	P.43 表 8 810の場所の欄	大分県中津	大分県中津市
	P.43 表 8 810と 811の間	同左表 8	P.43 表 8 810と 811の間に1行追加し、No.809とし、それ以降のNo.を1番ずつ増やす
	追加行(新規追加No.809の行)	同左表 8	「発見」を項目の欄に追記
	追加行(新規追加No.809の行)	同左表 8	「大分県宇佐市」を場所の欄に追記
	追加行(新規追加No.809の行)	同左表 8	「昭和43年」を年月日の欄に追記
	追加行(新規追加No.809の行)	同左表 8	「イペリット弾1発」を毒ガス弾等の欄に追記
	追加行(新規追加No.809の行)	同左表 8	「コンクリート密封、海中投棄」を概要の欄に追記
	P.43 表 8 811の場所の欄	大分県中津	大分県宇佐市
	P.43 表 8 812,817の地図番号の欄	(空欄)	12
	P.43 表 8 813の場所の欄	大分県中津	大分県中津市
	P.43 表 8 815の場所の欄	大分県中津	大分県三光村
	P.43 表 8 816の場所の欄	大分県中津	大分県宇佐市
15	P.44 上から15行目 P.46 上から13行目	そのため、各事案について、次の考え方に基づき、類型化を行った。 (2)各事案の具体的な・・・ である。 今後は、政府と地方公共団体が・・・決定する必要がある。 注：文章の入れ替え	そのため、各事案について、次の考え方に基づき、類型化を行った。 陸域の事案(114事案) 水域の事案(29事案)・・・調査検討することが必要である。 (2)各事案の具体的な分類と今後の対応・・・ 今後は、政府と地方公共団体が・・・決定する必要がある。
16	P.49 表 9 番号65の旧軍保有部隊名等の欄		第九陸軍技術研究所(登戸研究所)
	P.49 表 9 番号65の個別事案に記載されている情報の内容の欄	空欄	その他の欄に
	P.49 表 9 番号101の地名の欄	大三島町	上浦町

	P.49 表9 番号107の旧軍保有部隊名等の欄		西部軍教育隊
17	P.54 38-1の事案名	大三島町	上浦町
18	p.55 資料	・「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分に関する報告」昭和24年12月28日〔4〕	・「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分について（通知）」昭和24年12月28日〔4〕
	p.55 上から7行目	60kg1号爆弾217発	マスタード60kg爆弾217発
19	p.57 上から9行目	60kg1号爆弾217発	マスタード60kg爆弾217発
20	p.59 資料	同左資料欄	『・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔23〕』を追加
21	p.60 下から9行目	{3}{4}{5}{6}{7}{8}{9}{10}{11}{12}{13}{14}{15}{16}{17}{18}{19}{20}{21}。	{3}{4}{5}{6}{7}{8}{9}{10}{11}{12}{13}{14}{15}{16}{17}{18}{19}{20}{21}{23}。
22	p.65 分類の欄の1行目と2行目の間	同左分類欄	「発見・被災・掃海等処理」を追加
	p.65 資料	同左資料欄	『・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔13〕』を追加
23	p.66 ○現在の状況の上	同左資料内容概要欄	「発見・被災・掃海等処理情報 ・昭和37年6月12日に、北海道留萌市で、くしゃみ性ガス（弾）が1本発見され、自衛隊が爆破処理したと記載されている〔13〕。」を挿入
24	p.67 下から1行目	弾があった」・・・〔1〕。	弾があったようだ」・・・〔1〕。
25	p.69 下から2行目	焼却処理した〔1〕〔2〕。	焼却処理したと記載されている〔1〕〔2〕。
26	p.70 事案名	根室海岸（北海道1-10）	根室海岸の事案（北海道1-10）
27	p.74 下から1行目	使用している〔6〕	使用している〔6〕。
28	p.75 資料	同左資料欄	『・「陸奥湾における弾薬類及び毒ガス爆弾投棄に関する考察」平成8年4月8日〔23〕』を追加
29	p.76 上から14行目	{2}。	{23}。
30	p.78 下から10～15行目	・「昭和43年8月26日、青年2人が夏泊半島大島海岸で遊泳中に、海中5メートルで爆弾を拾い持ち帰った。2人は、翌日爆弾を金鋸で切断しようとした時に刺激の強い異臭を伴った油状液体が漏洩してきたので廃油の缶に受け保管放置したこの時に2人とも被災し、うち1人は死亡した。」と記載されている〔2〕〔3〕〔6〕〔11〕〔20〕。	・「昭和43年8月26日、青年2人が夏泊半島の大島海岸で遊泳中に、海中5メートルで爆弾（一部資料ではイペリット弾と記載されている）を拾い持ち帰った。2人は、翌日、爆弾を金鋸で切断しようとした時に刺激の強い異臭を伴った油状液体が漏洩してきたので廃油の缶に受け保管放置した。この時に2人とも被災し、うち1人は死亡した。」と記載されている〔2〕〔3〕〔6〕〔11〕〔20〕〔21〕。
31	p.79 下から2行目	{2}{16}{18}{19}{22}。	{2}{18}{19}{22}。
32	p.80 資料	Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare. Vol. IV. 15 May 1946.〔3〕	削除
	p.80 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年8月29日〔12〕	削除
	p.80-82 資料及び本文中の参考文献番号	{4}～{11}	{3}～{10}
	p.80及びp.82 資料及び本文中の参考文献番号	{13}	{11}
	p.81 上から3～4行目	・昭和21年5月付けの米軍資料によればイペリット弾2,000発が廃棄されていた〔3〕。	削除
	p.81 下から4～5行目	ドラム缶があったと述べている〔11〕。	ドラム缶があったと述べている〔7〕〔10〕。
p.82 上から1行目	考えられると記載されている〔12〕。	考えられると記載されている〔7〕。	
33	p.86 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」〔4〕	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年10月〔4〕
	p.86 下から7行目	歩兵第4連隊	歩兵第四連隊
34	p.88 資料	追加	・昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）平成15年8月29日〔2〕
	p.88 上から4行目	山形県飛島法木海岸	山形県酒田市飛島法木海岸
	p.88 下から1行目	処分した。	処分した〔1〕〔2〕。
35	p.89 下から6～5行目	塩化アセトフェノン	1号特薬
	p.89 下から3～2行目	塩化アセトフェノン	催涙ガス
36	p.92 資料	同左資料欄	「・読売新聞水戸支局ホームページ〔14〕」を追加
	p.92 上から6行目	独立混成第105旅団	独立混成第115旅団
37	p.94 下から1～3行目	終戦時には独立混成第105旅団（約3,000人～4,000人）が鹿島灘への米軍の上陸に備えるため、駐在していた〔13〕。	終戦時には独立混成第115旅団（約3,000人～4,000人）が鹿島灘への米軍の上陸に備えるため、展開していた〔13〕〔14〕。
38	p.97 資料	同左資料欄	「・『東京新聞』平成15年6月14日〔5〕 ・『朝日新聞』平成15年6月14日〔6〕」を追加
	p.97 下から1行目	としている〔4〕。	としている〔4〕〔5〕〔6〕。
39	p.99 資料	同左資料欄	「・宇都宮市ホームページ資料〔6〕」を追加
	p.99 上から6、7行目	{2}{3}{4}{5}。	{1}{2}{3}{4}。
	p.99 上から12行目	{2}。	{1}。
	p.99 下から2行目の上	同左資料内容概要欄	「○現在の状況」を挿入
	p.99 下から1行目	{1}。	{6}。
40	p.101 資料	同左資料欄	「・『朝日新聞』平成14年8月30日〔9〕」を追加
	p.101 上から7行目	いた〔1〕〔2〕〔3〕〔4〕。	いた〔1〕〔2〕。
	p.101 上から9行目	{5}。	{3}{4}{5}。

	p.101 下から9行目	{ 6 } { 7 }。	{ 6 } { 7 } { 9 }。
41	p.106 上から14～22行目	・掃海作業は、昭和32年9月13日に漁船が銚子市一の島灯台E N E 1.5海里の海域で操業中に毒ガスの入った缶を引き揚げて被災したことを受けて、昭和34年に実施されたが、缶は引き揚げられなかった{ 3 } { 4 }。・漁船はこの海域での操業を避けるようにしていたが、この海域が昭和44年10月ごろからヤリイカ的好漁場になったのに伴い、昭和45年から漁船の被災が続出した。このため同年中に2回にわたり掃海が行なわれ、缶等33個を揚収した{ 5 } { 6 } { 7 }。	・掃海作業は、昭和32年9月13日に漁船が銚子市一の島灯台東北東約2.7kmの海域で操業中に鉄製セメント樽容器を引き揚げて被災したことを受けて、昭和34年6月25日から7月1日までの間に実施されたが、毒ガス缶は引き揚げられなかった{ 3 } { 4 }。・銚子一の島灯台北東約1.5海里の海域は好漁場であった関係で、昭和44年11月初旬から45年1月までの間に9隻14件がイペリット缶を引き揚げ、15名が負傷していることが判明した。このため同年中に2回にわたり掃海が行なわれ、イペリット缶33個を揚収した{ 5 } { 6 } { 7 }。
42	P.111 上から5～6行目 P.111 下から13行目	イペリット缶(量不明)・ルイサイト缶(6t) 発見されている{ 7 }。	イペリット缶とルイサイト缶(合わせて約6t) 発見されたと記載されている{ 7 }。
43	p.113 資料 p.113 上から10行目	同左資料欄 投棄した」と記載されている{ 1 }。	『・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」{ 13 }』を追加 投棄したものと思われる」と記載されている{ 1 }。
44	p.114 上から4行目と5行目の間	同左資料内容概要欄	・昭和50年11月9日から18日までに、東京湾富津沖で旧海軍60キロ爆弾(イペリット)が6個発見され、自衛隊がコンクリート詰めにした後、海中投棄されたと記載されている。{ 13 }。
45	p.117 13行目	同年8月	同年6月
46	P.118 資料 p.118 上から10～11行目	・「陸軍科学研究所及第六陸軍技術研究所・・・過の概要」昭和31年7月稿、昭和31年6月複写{ 2 } 関連する情報も証言として寄せられている{ 6 }。	・「陸軍科学研究所及第六陸軍技術研究所・・・過の概要」昭和31年6月{ 2 } 削除
47	p.122 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月17日{ 3 }	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年10月20日{ 3 }
48	p.125 資料 p.125 資料及び本文中の参考文献番号 p.125 資料 p.125 資料及び本文中の参考文献番号 p.126 上から7行目	・証言{ 9 } ・「神奈川県寒川町の不審物検知・除染に関する第1師団行動命令」(13.1.16){ 10 } ・「第1師団の検知能力増強に関する化学学校行動命令」(13.1.16){ 11 } ・「朝日新聞」・「産経新聞」・「朝日新聞」・「神奈川新聞」平成13年1月25日{ 12 }	・証言{ 9 } ・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年8月29日{ 10 } ・「朝日新聞」・「産経新聞」・「神奈川新聞」平成13年1月17日、「朝日新聞」・「神奈川新聞」平成13年1月25日{ 11 }
		{ 13 }、{ 14 }、{ 15 }、{ 16 }	それぞれ一番ずつ減じる{ 12 }、{ 13 }、{ 14 }、{ 15 }
		・第三回さがみ縦貫危険物処理に関する有識者委員会{ 15 }	・第三回さがみ縦貫道路周辺地域等化学物質調査検討会{ 14 }
		{ 17 }及び{ 18 }	{ 16 }
49	p.127 上から3行目	43,000発が生産された{ 2 }。	43,000発が生産された{ 1 }。
50	p.129 下から4行目	撤収した{ 10 } { 11 }。	撤収した{ 10 }。
51	p.130 下から11行目と12行目の間	同左資料内容概要欄	「・昭和38年2月19日に、神奈川県厚塚市で旧軍毒ガスボンベが発見され、自衛隊により海中投棄されたと記載されている{ 12 }。」を挿入
52	p.132 資料 p.132 資料及び本文中の参考文献番号 p.132 上から2行目から3行目 P.132 下から9行目 p.132 下から7行目	同左資料欄 { 2 }、{ 3 }、{ 4 }、{ 5 }、{ 6 }、{ 7 } 毒ガス(イペリットおよびホスゲン)の動物実験を行った{ 1 }。 神奈川県足柄下郡吉浜町海岸に投棄 「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告(案)」にもこれと同じ記載がある{ 3 }。	「・「本邦化学兵器技術史」{ 2 }」を追加 それぞれ一番ずつ増やす： { 3 }、{ 4 }、{ 5 }、{ 6 }、{ 7 }、{ 8 } 毒ガス(イペリットやホスゲン)の動物実験や毒物管理並びに治療法の研究を行った{ 1 } { 2 }。 海中に投棄 削除
53	P.134 資料 P.134 資料及び本文中の参考文献番号 P.134 上から3行目から4行目 P.134 下から5行目から7行目	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』の・・・(回答)」平成15年10月23日{ 4 } { 5 }、{ 6 } 厚木補給工場は、神奈川県座間市、神奈川県高座郡、神奈川県厚木市にあったという記載がある。 ・第2海軍航空廠厚木補給工場は、座間市の・・・一部は埋め立てられている{ 4 }。	削除 それぞれ一番ずつ減じる：{ 4 }、{ 5 } 厚木補給工場は、神奈川県高座郡、神奈川県厚木市にあったという記載がある。 削除
54	p.135 資料 p.135 資料及び本文中の参考文献番号 p.135 上から10行目と11行目の間	同左資料欄 { 3 } 同左資料内容概要欄	『「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告(案)」資料2の2{ 3 }』を追加 { 4 } 「・昭和20年8月に相模湾にイペリット、ルイサイト計2tを海中投棄したとの記載がある{ 3 }。」を追加
55	p.137 上から11行目 p.137 上から15行目	8月1日現在 (27kg)	8月1日現在 (27号)
56	p.138 上から16行目～17行目 p.138 上から24行目	イペリットガス弾が1発発見された{ 4 }。 500発	イペリット弾1発が発見された{ 4 }。 500個
57	p.141 分類 p.141 資料 p.141 上から10行目 p.141 下から12行目 p.141 下から2行目と3行目の間	同左分類欄 ・『毎日新聞』昭和58年6月8日{ 3 } { 1 } { 2 }。 { 3 } { 4 } { 5 }。 同左資料内容概要欄	「その他」を挿入 ・『毎日新聞』昭和58年6月4日{ 3 } { 1 } { 2 } { 3 }。 { 4 } { 5 }。 「その他情報」を挿入
58	p.143 分類	同左分類欄	「○発見・被災・掃海等処理」の追加

	p.143 資料	・Target No.337(Nao Shima, hikoku),Technical Intelligence Co.(Seya,Ikeko)〔7〕	・Activities of Team No. 53 for the period of 15 Oct 45 to 31Oct 45. (Target No.337(Nao Shima, hikoku),Technical Intelligence Co.(Seya, Ikeko))〔7〕
	p.143 資料	同左資料欄	『・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔13〕』を追加
	p.143 資料及び本文中の参考文献番号	〔9〕、〔10〕	〔10〕、〔11〕
	p.143 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年〔9〕	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年10月23日〔10〕
	p.143 上から8行目	・終戦時に瀬谷には、60kgイペリット爆弾5,680発が存在していた〔2〕。	・終戦時に瀬谷には、マスタード60kg爆弾5,680発が存在していた〔2〕。
	p.143 下から8、9行目	・終戦時に、神奈川県瀬谷の第2海軍航空廠には60kgイペリット爆弾(6番1号爆弾)が8852発存在していた〔5〕。	・終戦時に、神奈川県瀬谷の第2海軍航空廠には6番1号爆弾が8,852発存在していた〔5〕。
59	p.143の最終行とp.144の上から1行目の間	同左資料内容概要欄	「発見・被災・掃海等処理状況 ・昭和37年7月に、神奈川県横浜市でイペリットボンベ1個が発見されたと記載されている〔9〕。」を挿入
60	p.145 分類	同左分類欄	「○その他」を追加
	p.145 資料	同左資料欄	「・『陸軍登戸研究所の真実』2001年1月25日〔2〕 ・『東京新聞』平成10年8月14日〔3〕 ・メディタスくらしの窓新聞社ホームページ〔4〕」を追加
	p.145 2行目の後ろ	同左資料内容概要欄	また、同市内には、戦時中に第九陸軍技術研究所(登戸研究所)があり、毒ガスの研究をしていた。
	p.145 下から1行目の後	同左資料内容概要欄	「その他情報 ・戦時中に、市内に第九陸軍技術研究所(登戸研究所)が存在し、同研究所では毒ガスの開発・製造を行っていたとされる〔2〕〔3〕。なお、現在同研究所跡地は、教育機関の施設となっている〔4〕。」を追加
61	p.147 上から11行目	記載されている〔2〕。	記載されている〔1〕〔2〕。
62	p.148 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月7日〔6〕	削除
	p.148 上から6行目	高岡出張所	高岡出張所
	p.148 下から8行目	イペリット缶4本(計約800kg)	イペリット入り鉄容器4個(約800kg)
63	p.149 下から3行目	イペリット缶4本(約800kg)	イペリット入り鉄容器4個(約800kg)
64	p.150 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年11月4日	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年11月4日〔2〕
65	p.152 下から4行目	防衛庁資料によれば	資料によれば
66	p.153 下から3行目	演習場	練兵場
67	p.158 資料	・証言〔8〕	・『静岡新聞』昭和22年7月17日〔8〕
	p.158 資料	同左資料欄	「・証言(48年調査)〔19〕」を追加
68	p.159 上から4行目の次	同左資料内容概要欄	「・証言によると、証言者(元第三陸軍航空技術研究所三方原出張所長)は、終戦時に、イペリット缶1本を旧引佐郡中川村(現細江町中川)またはその付近の地中に埋設したと思うと記載されている〔19〕。」を追加
	p.159 下から14行目	〔8〕	削除
	p.159 下から8行目	た。同じ頃、	た〔8〕。同じ頃
	p.159 下から7行目	記載されている〔9〕〔10〕。	記載されている〔9〕。
69	p.160 下から10行目	容器2缶が発見された〔10〕〔17〕。	容器2缶が発見された〔10〕〔15〕。
	p.160 下から3行目	砒素	ヒ素
70	p.163 下から4行目	天竜川	天竜
71	p.167 資料	同左資料欄	「・昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査〔2〕」を挿入
	p.167 資料及び本文中の参考文献番号	〔2〕	〔3〕
	p.167 下から3行目	保有していた〔1〕。	保有していた〔1〕〔2〕。
72	p.169 上から2行目及び下から2行目	被膜	被覆
73	p.170 上から18行目～21行目	・元大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所員の証言によれば、「昭和20年8月に、大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所にあったトラック10台分の『あか弾』・『みどり弾』を舞鶴沖に海洋投棄した。『きい弾』はなかった」と記載されている〔6〕。	・元大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所員の証言には、「大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所の『あか弾』・『みどり弾』(『きい弾』はなかった様子)、数量トラック10台分前後を、日本海(舞鶴沖)に海没」と記載されている〔6〕。
	p.170 上から22行目	第31海軍航空廠(舞鶴)にて、	第31海軍航空廠(舞鶴)にあった
74	p.172 分類	同左分類欄	「その他」を追加
	p.172 上から5～10行目	・元大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所員の証言によれば、「昭和20年8月に、大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所にはトラック10台分の『あか弾』・『みどり弾』があり、『きい弾』はなかった」と記載されている〔1〕。なお、同証言者によれば、同所に保管されていた毒ガスは、舞鶴沖に投棄されたとしている〔1〕。	・元大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所員の証言には、「ガス弾種は迫撃砲弾を主とし十五(資料一文字読み取れず)、十五(資料一文字読み取れず)等も若干含まれて居た」と記載されている〔1〕。
	p.172 上から11～13行目	・大阪陸軍兵器補給廠祝園墳墓所員は、当時、京都府相楽綴喜地区の川西村、山田壮村、普賢寺村(現、京都府精華町及び京田辺市)に存在した〔2〕。	削除
	p.172 生産・保有情報の項の次に挿入	同左資料内容概要欄	「廃棄・遺棄情報 ・上記証言には「『あか弾』・『みどり弾』(『きい弾』はなかった様子)、数量トラック10台分前後を、日本海(舞鶴沖)に海没」と記載されている〔1〕。」を挿入

	p.172 下から1行目	同左資料内容概要欄	「その他 ・大阪陸軍兵器補給廠祝園墳葬所は、当時、京都府相楽綴喜地区の川西村、山田社村、普賢寺村（現、京都府精華町及び京田辺市）に存在した〔2〕。」を挿入
75	p.173 資料	・記者会見資料 平成15年6月19日〔2〕	削除
	p.173 上から12行目	教育敷地	教育施設
	p.173 下から1行目	〔2〕	〔1〕
76	p.176 資料	・「中方防第440号電」昭和53年9月22日〔1〕	削除
	p.176 上から8行目	〔1〕	削除
	p.176 資料及び本文中の参考文献番号	〔2〕、〔3〕、〔4〕、〔5〕、〔6〕	1番づつ減じる： 〔1〕、〔2〕、〔3〕、〔4〕、〔5〕
77	p.177 上から7行目	被膜	被覆
78	p.179 事案名	姫路市	姫路市の事案
79	p.180 事案名	洲本市	洲本市の事案
80	p.182 上から5行目、23-24行目、25行目	青野ヶ原	青野原
81	p.183 上から6行目	いずれも	いずれも
82	p.186 分類	同左分類欄	「発見・被災・掃海等処理」を追加
	p.186 資料	同左資料欄	『化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔2〕』を追加
	p.186 下から1行目	同左資料内容概要欄	「発見・被災・掃海等処理情報 ・昭和46年2月15日に、和歌山県内で毒ガス標本(アンブル)6本が発見され、自衛隊によりコンクリート密封後、海中投棄された〔2〕。」を追加
83	p.187 上から8~9行目	の計443個	削除
	p.187 上から12行目	各種あか筒49個	中あか筒4個、小あか筒4個、発射あか筒41個
84	p.191 下から2行目	化学室担当者リスト	化学室担当者ノート
	p.191 資料	・「昭和39年度第2-4半期不発弾等処理状況報告」(昭和39年10月)〔19〕 ・「記録写真集」〔20〕	削除
	p.191 資料	同左資料欄	『昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)平成15年8月29日〔19〕』を追加
	p.191~194 資料及び本文中の参考文献番号	〔21〕~〔27〕	1番ずつ減じる：〔20〕~〔26〕
85	p.193 上から4行目	〔4〕	〔5〕
	p.193 上から16行目 p.193 下から7行目、10行目 p.194 上から4行目	〔2〕	削除
	p.193 下から17行目	〔20〕	〔19〕
86	p.195 資料	・Target No.CW 5131(Sone),Army Intelligence Document File〔16〕	・Target No.CW 5031(Sone),Army Intelligence Document File〔16〕
	p.195 資料	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔17〕	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔17〕
	p.195 資料	Enemy CW and Smoke Intelligence Summary〔18〕	Enemy CW and Smoke Intelligence Summary No.101〔18〕
	p.195 資料及び本文中の参考文献番号	〔30〕~〔61〕	1番減じる：〔29〕~〔60〕
87	p.196 資料	・「大久野島周辺漁業協同組合請願書」(S46)〔55〕	・「大久野島周辺海域に投棄された毒瓦斯等の処置について(請願)」昭和46年2月24日〔54〕
88	p.198 下から14行目と下から13行目の間	同左資料内容概要欄	「・終戦時、広島陸軍兵器補給廠忠海分廠には九九式大あか筒11、258個、九八式中あか筒271個、九八式小あか筒44、659個、百式発射あか筒398、869個、百式中あか筒65、604個、百式小あか筒29、003個、一式大あか筒33、166個、九八式中あか筒430個、93式特殊発煙筒1、002本が保有されていた〔28〕。」を追加
89	p.199 下から7~6行目	〔15〕〔24〕〔33〕〔42〕〔53〕〔57〕。	〔15〕〔52〕〔55〕。
90	p.200 上から9行目	昭和30、	昭和30年頃、
	p.200 上から19行目	〔35〕。	〔1〕。
	p.200 下から18行目	〔2〕〔11〕〔23〕〔33〕〔47〕〔54〕。	〔2〕〔11〕〔23〕〔32〕〔35〕〔46〕〔53〕。
	p.200 下から11行目	協力した〔20〕。	協力したと記載されている〔20〕。
	p.200 下から4行目	同月30~31日	同年5月30~31日
91	p.202 資料	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔5〕	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔5〕
	p.202 下から4行目	・1946年2月11日前後において、米軍の・・・	・1946年8月頃までの間に、米軍の・・・
	p.202 下から1行目	忠海平気補給廠	忠海兵器補給廠
92	p.204 資料	同左資料欄	『『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について』平成15年10月27日〔5〕』を追加
	p.204 下から5行目	忠海平気補給廠	忠海兵器補給廠
93	p.205 下から1行目	れた〔4〕。	れた〔5〕。

94	p.206 資料	「化学兵器応答集(其ノ三)」昭和20年10月1日〔2〕	削除
	p.206 資料及び本文中の参照番号	〔3〕～〔11〕	1番減じる〔2〕～〔10〕
	p.206 資料	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔10〕	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946〔9〕
	p.206 上から8行目 p.206 下から2行目	されていた〔2〕〔3〕〔4〕。 忠海平気補給廠	されていた〔2〕〔3〕。 忠海兵器補給廠
95	P.208 下から3行目 P.208 下から1行目	自衛隊施設 る。	米軍の弾薬庫 る〔8〕。
	96	p.209 資料	・「旧軍毒ガス弾等の全国調査」のフォローアップ調査について〔2〕
p.209 資料		・「『毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査報告書に係る個別事例の訂正等について〔3〕	削除
p.209 資料5		Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946	Disposal Report Chemical Munitions:Operation Lewisite,1946
p.209 上から8行目		る〔3〕。	る〔2〕。
p.209 上から8～9行目		忠海平気補給廠	忠海兵器補給廠
p.209 資料及び本文中の参考文献番号		〔4〕、〔5〕	1番ずつ減ずる:〔3〕、〔4〕
97	p.215 上から8行目	がわかった〔4〕。しばらく	がわかった。しばらく
	p.215 上から9行目	〔5〕〔6〕〔7〕〔8〕、	〔4〕〔5〕〔6〕〔7〕〔8〕、
	p.215 上から11行目	ドラム缶1,213本を埋設した〔9〕〔10〕〔11〕。	ドラム缶を埋設した〔9〕〔10〕〔11〕。
	p.215 上から19～20行目	〔12〕〔13〕〔14〕〔15〕。	〔13〕〔14〕〔15〕。
98	p.217 資料	・『読売新聞』西部平成7年3月6日〔28〕	削除
	p.217～221 資料及び本文中の参考文献番号 但しp.220の上から22行目の〔32〕は修正しない。	〔29〕～〔32〕	1番ずつ減ずる:〔28〕～〔31〕
	p.217 資料	同左資料欄	『・「周防灘砲弾処理にかかる海底状況調査について」〔32〕』を追加
99	p.220 上から14行目	〔28〕	〔14〕
100	p.229 事案名	大三島町の事案	上浦町の事案
101	p.232 資料	・「化兵剤及弾薬生産調査ノ件」12月26日〔5〕	削除
	p.232 資料及び本文中の参考文献番号	〔6〕	〔5〕
	p.232 下から9行目	〔5〕	削除
102	p.235 資料	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査」について〔12〕	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査」に係る情報〔12〕
	p.235 資料	・苅田港における船舶、投錨の禁止について〔15〕	・「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査」に係る情報〔15〕
	p.235 資料	同左資料欄	『・ホームページ「第7管区水路通報」(2000年47号)〔16〕』を追加
103	p.236 上から19行目～20行目	という〔11〕。	という〔10〕。
	p.236 下から6行目	・苅田港における過去の「爆発物」発見個数について次のように記載されている〔12〕。	・苅田港における過去の「爆発物」発見個数については、資料〔12〕に基づき次頁の別表に整理した。
104	p.237 下から1行目	設定されている〔15〕。	設定されている〔15〕〔16〕。
105	p.239 事案名	陸軍造兵廠曾根製造所の事案(40-5)	陸軍造兵廠曾根製造所の事案(福岡県40-5)
106	p.240 上から10～13行目	・米軍は、各種あか弾4,109発・各種きい弾12,145発・投下きい弾7発・投下あか弾11発(以上計16,272発)は日本軍により廃棄済であるとしている〔6〕。	・米軍は、あか弾3,000発・きい弾955発及びあお弾448発は、日本軍により廃棄済であるとしている〔6〕。
107	p.242 下から8行目から下から3行目	・昭和45年6月19日に、北九州市でイペリット(弾)1発が発見され、自衛隊がコンクリート密封したと記載されている〔1〕〔2〕。 ・昭和45年6月19日に、北九州市でイペリット(弾)1発が発見され、自衛隊がコンクリート密封したと記載されている〔1〕〔2〕。	削除
108	p.243 上から2行目から4行目	・昭和46年9月11日に、北九州市でイペリット(弾)1発が発見され、自衛隊がコンクリート密封したと記載されている〔1〕〔2〕。	削除
109	p.245 資料及び本文中の参考文献番号	〔5〕	〔6〕
	p.245 資料	同左資料欄	『・Reports on Scientific Intelligence Survey in Japan. September & October 1945. Vol. IV Chemical Warfare I-NOV-45〔5〕』を追加
	p.245 上から9行目	・第21海軍航空廠(佐世保)に60kgイペリット爆弾5,000発が残存していたと記載されている(日付は不明)〔4〕。	・第21海軍航空廠(佐世保)に60kgイペリット爆弾5,000発が残存していたと記載されている(日付は不明)〔4〕〔5〕。
110	p.246 資料	同左資料欄	『・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔5〕』を追加
	p.246 上から5行目	(「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告(案)」によれば7月8日～9月22日)	(「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告(案)」等によれば7月8日～9月22日)
	p.246 上から13、14行目	〔1〕〔2〕〔3〕。	〔1〕〔2〕〔3〕〔5〕。
111	p.250 上から13行目	・資料によれば、終戦後、大分市に	・資料によれば、終戦後、第十二海軍航空廠大分に

112	P.253 下から8行目	・昭和43年に、宇佐市でイペリット弾1発が発見され、自衛隊がコンクリートで密封した後に海中投棄したと記載されている〔2〕。	削除
113	p.255 上から5～6行目	・元陸軍造兵廠曾根製造所従業員は、「終戦時に残存した毒ガス弾を豊後水道に投棄した」と記載されている〔1〕。	・元陸軍造兵廠曾根製造所従業員が「終戦時に残存した毒ガス弾を豊後水道に投棄した」と述べたことが記載されている〔1〕。
114	p.262 事案名	沖縄市	沖縄市の事案
	p.262 下から1行目	されている〔1〕。	されている〔1〕〔2〕。
115	P.269 別表2 No.24の概要欄	同左別表2中に一部記述内容が見えない箇所がある。	報告書更新電子版(当省ホームページに掲載)で修正
116	P.271 別表2 No.42の概要欄	同左別表2中に一部記述内容が見えない箇所がある。	同上
117	P.274 別表2 No.65の概要欄	同左別表2中に一部記述内容が見えない箇所がある。	同上
118	P.277 別表2 No.の欄	Y	88
	P.277 別表2 No.90の概要欄	同左別表2中に一部記述内容が見えない箇所がある。	報告書更新電子版(当省ホームページに掲載)で修正
119	p.292 別表4 4の証言の欄	空欄	
120	p.294 下から11行目	・Disposal Report Chemical Munitions Operation Lewisite 1946	・Disposal Report,Chemical Munitions.Operation Lewisite, BCOF Occupation Zone Japan,8 May 1946 to 30 Nov.1946.
	p.294 下から10行目	・Disposal Report Chemical Munitions Bcof Headquarters 1 July 46.	・Disposal Report,Chemical Munitions.British Commonwealth Occupation Force,Headquarters,1 July
	p.294 下から4行目	・Target No.337(Nao Shima, hikoku),Technical Intelligence Co.(Seya,Ikeko)	・Activities of Team No. 53 for the period of 15 Oct 45 to 31Oct 45. (Target No.337(Nao Shima, hikoku),Technical Intelligence Co.(Seya, Ikeko))
	p.294 下から2行目	・Target No.CW 5131(Sone),Army Intelligence Document File	・Target No.CW 5031(Sone),Army Intelligence Document File
	p.294 下から1行目	・23. CG Sixth Army Japanese Toxic Ammunitions in Omine/Okunoshima 2-DEC-45/15-NOV-45	・CG Sixth Army Japanese Toxic Ammunitions in Omine/Okunoshima 2-DEC-45/15-NOV-45